

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

部落出身をさらけ出した人権学習

K子が部落出身であることを自ら語った全体学習の翌日、私は部落出身である自分のことをクラスの生徒たちに語りました。今まで部落出身の教師であるということ、授業の一場面語ったことはありました。しかし、丸々1時間語ったのは初めてでした。



部落出身であることを初めて知った中学時代、部落差別におびえ、故郷を離れることばかりを考えた高校時代、京都での大学時代。教師になって頑張ろうとしたけれど、頑張りきれなかったこれまでの思い。私の中に秘めてきた思いを生徒たちにぶつけていきました。

この授業の語り、私の目覚めであり、自分自身を解放していくスタートでした。

この授業に寄せて綴られた生活ノートは、部落差別がすべての生徒たちの上のしかかっている現実を私に訴えるとともに、私自身を奮い立たせるものでした。



本心をさらけ出す語り合いの人権学習の原点

この授業から私の部落問題学習への取り組みはまったく違うものになっていきました。部落問題学習だけでなく、すべての教育活動に私自身の生き方をぶつけていきました。

本心をさらけ出す語り合いの人権学習、それが一人一人の生徒の立ち上がりを生んでいき、その生徒たちのひたむきな頑張り、教師一人一人の生き方を大きく揺さぶっていきました。そして、この人権学習を原点に、私自身の差別意識と闘い続けていく日々がスタートしていきました。

部落のことを語ってくれた先生へ

今日の授業、胸がいっぱいになって涙が出てきた。今までにない悲しさ、腹立ちがこみ上げてきました。こんなに真剣になれた授業は、本当に初めてでした。先生はすごいと思う。

おじいちゃんと初めて部落問題について話をしました。K地区のHという地域が部落だそうです。実は私の住所はK字Hです。私はびっくりしました。その時「嫌だ!」って思いました。おじいちゃんから私の家は部落に入っていないって聞いたときは、ものすごくホッとした。それでハッとした。先生の話の聞いていると、涙が出て、腹が立ってくるのに、自分のこととなると嫌だって思うんです。ものすごく都合のいい心だなあと思いました。

差別があることに気づかないのは、自分自身の中にある差別意識に気づいていないからだと思います。

